

シニア向けサービスを考える ～大人のための楽しい図書館活用講座の実践から～

葉山（三村）敦美
座間市立図書館

1. シニアサービスとは？

1) 辞典類にみるシニアサービス

・『図書館用語集 四訂版』（日本図書館協会編・発行 2013. 10）

「高齢者サービス」「シニアサービス」とも項目になく「障害者サービス」の中でハンディキャップのひとつとして「高齢」があげられているのみである。

・『図書館ハンドブック 第6版補訂版』（日本図書館協会 2010）

「高齢者へのサービス」という項で36行（約700字）記述されている。内容的には、従来の「図書館利用に障害のある人々」の範疇を超えた解説となっている。また、ALAの「高齢者サービスのガイドライン」も項目も紹介されている。

2) ALA「高齢者向け図書館・情報サービスガイドライン」

- ①ウェブ社会への対応
- ②ポジティブ・イメージからの高齢者サービス
- ③ブーマー世代への対応

3) シニアの関心ごと

- ①健康問題。
- ②親の介護問題
- ③ノスタルジー型、悲憤慨型。
- ④生活エンジョイ型。
- ⑤社会と関わりながら、今実践していることの情報交換。

4) 図書館を使いこなす力ランク

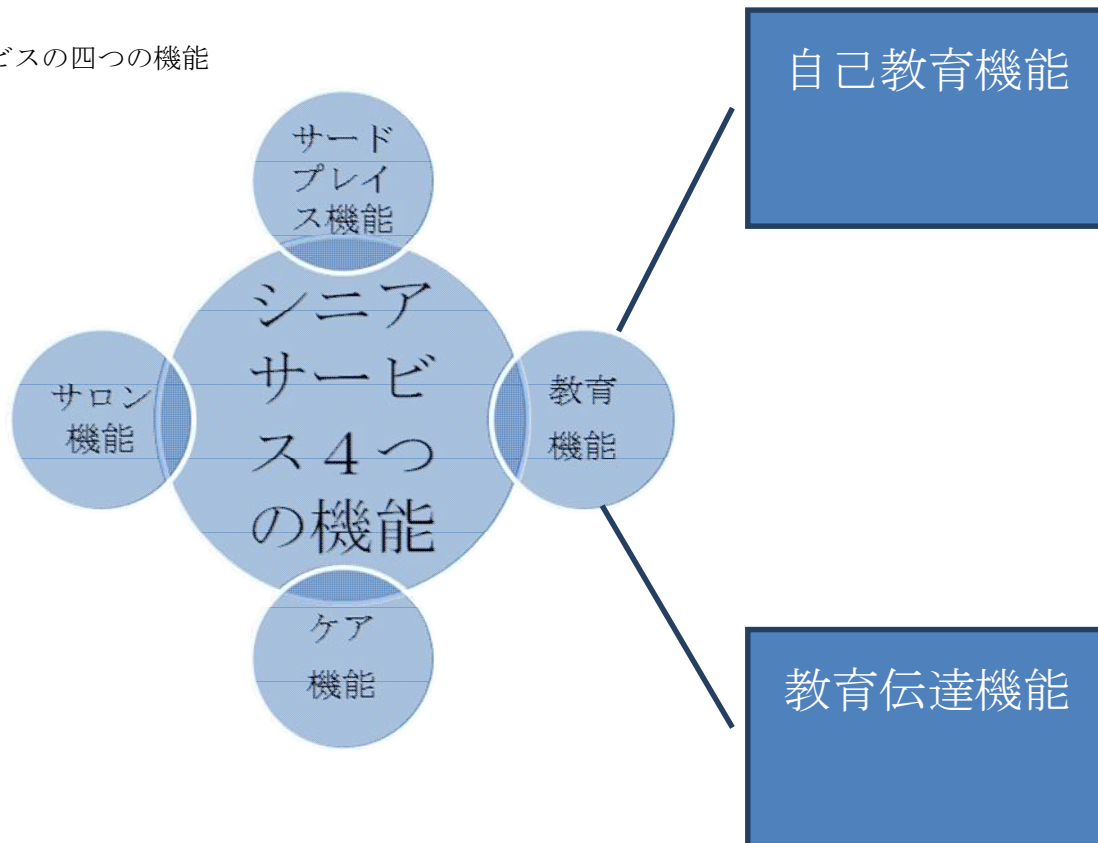
- ・図書館力初級—自分の住まいの最寄図書館に暇つぶしにでも出かけ、雑誌や本を読むことを楽しんでいる人たち。
- ・図書館力中級—行きつけの図書館をいちおう使いこなし、読書・調べものをおこなうことができるレベル。
- ・図書館力上級—読書・調べもの

5) 「第3の場所」としてのシニアサービス

- ①何度も利用しやすいコア・サービスがあること
- ②新たな友人をつくるきっかけが多いこと
- ③生活に役立つ情報が多く得られること

④健康維持、教養・スキル向上のための機会が多いこと

6) シニアサービスの四つの機能



7) 教育機能の例

2. 座間のシニアサービス

- 1) 座間市立図書館の調べ学習
- 2) 調べ学習の位置づけ
- 3) 読書環境の概念
- 4) つながりを求めて—紐帯とは？
- 5) 大人のための楽しい図書館活用講座の歴史
- 6) 大人のための楽しい図書館活用講座の課題と解決の方向

3. シニアサービスの視点を広げると

- 1) 座間市 図書館を使った調べる学習コンクール
- 2) 座間図書館ボランティア友の会
 - ① ワンスモア・ブックス・フェア (古本市)
 - ② 見学会 (川崎市立中原図書館・神奈川県立川崎図書館)
 - ③ 壁面ディスプレイ

4. 次のステップへ

- 1) 講座の目的

- ①調べる楽しみに気づく
- ②見知らぬ同士のコミュニケーション
- ③分かりやすくまとめる力
- ④自分の意見を伝えるように発表する

2) 主催者側の立位置

- ①調べる楽しさを利用者目線で考える
- ②シニア世代の経験や知識を尊重する
- ③シニア世代は現役時代の手法をとりがちである
- ④シニア世代の身体的、心理的特徴を理解する
- ⑤テーマは身近な内容のものが取りつきやすい（例えば「納豆」とか「漬物」などのように）

3) 住民の図書館運営への参加